

講義科目名称： ネットワーク・リテラシー

授業コード：

英文科目名称： Network Literacy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分		
@	1 学年	2	@		
担当教員					
飯塚 重善					
開講学科					
人間社会学部					
添付ファイル					
授業の目的と到達目標	生活や大学での研究等に必須のネットワークリテラシ（情報倫理を含む、ネットワーク時代の情報リテラシーで、「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム」のデータリテラシーを含める）を入学初年度に修得する。その中で、与えられている力を神と人（わかりにくければ、隣人と社会）に仕えるために用い、学院聖句を体現しようとする温かい心を養う。「この『温かい心』自体の理解の自覚」と、「ネットワークをそれまでより1.4倍以上よく使えるようになること」（総合自己評価）が到達目標である。教員は一人一人を大				
授業内容	神と人に知識や技能を捧げるための学びが大学聖句の「愛の実践」であることを理解し、本科目での学びでその実践を積む。インターネット上のLANに有線か無線で接続したWindows PCを一人一台ずつ用いて実習する（実習項目は、セキュリティ管理、OS、LAN、インターネット、クラウド（Office 365 ProPlus/ Education（OneDriveなど）、大学WebメールとGmail）、タッチタイピング、Officeの利用、データリテラシー、Excelによる大規模データの扱い、Pythonの基本、スマ				
アクティブラーニング型授業	○				
科目とディプロマポリシーとの関係 1:知識・理解 2:技能・能力 3:問題発見・解決力 4:シネティックスキル 5:市民性の涵養 6:自律性・生涯学習力	学科	人間社会	コミュニティ福祉	現代コミュニケーション	食物
	DP	1, 2, 3, 4, 5, 6	1, 2, 3, 4, 5, 6		
授業計画	第1回	学習の心構え。学習方法。Windowsの基本と操作（以降、W基操）その1（マウス操作、OSとその役割、起動時の動作）。情報倫理（ビデオ）。LINEグループの作成。W基操その2（応用ソフトの起動と終了、Window操作（リサイズ、移動等）、ファイルとフォルダ）。			
	第2回	ノートPC相談窓口などの確認。プロキシ設定とインターネット接続（有線と無線）確認と本学の解説。HP閲覧・検索1（基本）。ウィルスソフトとWindows Updateの確認と解説。W基操その3（ファイルとその操作）-課題：階層ファイル構造を指定通り作成。			
	第3回	日本語FEPとその使用方法の確認等。タッチタイピングとその練習方法（Home Positionなど）。TypeQuick（以下、TQ）の登録、練習（進め方も適宜解説）、姿勢矯正。ネットワークフォルダへのアクセスとプリンタの設定について。宿題：毎日30分程のTQ練習（最終提出まで）。			
	第4回	TQ練習2、姿勢矯正。TQ練習成績の印刷とTQ登録の修正。「Office365 - 静岡英和学院大学」へのサインイン。「Office365 - 静岡英和学院大学」のOneDrive利用とノートPCとの同期。TQ練習データファイルのバックアップ（PC、LAN、OneDrive）。			
	第5回	Chromeの設定。大学Webメールサイトへのサインイン、大学付与メールアドレスからのメール送信（メールの一般的なレイアウト）、署名作成。Googleアカウントの登録とGmail使用。Gmailの設定（署名など）。Gmailにおけるファイル添付送付方法。			
	第6回	TQ練習3。データを読む（「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム」（以降「LMC」と記載する）の「基礎」に準拠）。			
	第7回	TQ練習4。データを説明する（「LMC」の「基礎」に準拠）。			
	第8回	TQ練習5。データを扱う（「LMC」の「基礎」に準拠）。			
	第9回	TQ練習6。データを扱うその2（「LMC」の「基礎」に準拠）。			
	第10回	夏休みの課題提示。「Office365 - 静岡英和学院大学」のOneDriveにおける指定フォルダの作成と担当教員との共有。教科書用ファイルのダウンロードと展開（ファイル操作）。教科書によるWord・Excel・PowerPointの実習（以降、教科書実習）その1。			

第11回	Office Onlineについて。教科書実習その2。スマホ版Gmailの利用。スマホでOneDriveを使用できるように設定。スマホからOneDriveの指定共有フォルダへ写真をアップ。スマホ版Wordの利用。宿題：TQ課題条件のクリア。
第12回	Python (Google Colaboratoryの利用) その1
第13回	Python (Google Colaboratoryの利用) その2
第14回	Python (Google Colaboratoryの利用) その3
第15回	TQの最終提出(速度と正解率の条件あり。印刷物を提出する)。修了済みのTQ練習成績をPDF印刷して提出する課題。夏休みの課題内容(スマホ版Wordも使用)の確認。
第16回	夏休みの課題の提出確認。後期の概要。PP課題の提示。Office365の「手書き簡易図形の自動整形、アイコン(SVG)、SmartArt」。draw.ioの素材確認。
第17回	説明図作成1：スマホのCGアプリの利用(課題①～②の説明、実演、準備。課題①：手書き図を用意する。課題②：手書き図をスマホで自動トレースしてSVGにする)。
第18回	説明図作成2：課題③：SVGへ色付けやテキスト入力を行う(スマホやレイヤ機能付きCGソフトを利用)。説明図作成3：考えの視覚化(マインドマップ)
第19回	「HTML+CSS」その1(教科書に沿って実施する課題の提示と準備)：ファイルの準備と課題開始。教科書に沿って進め、次回に続ける。説明図作成3(続き)。
第20回	「HTML+CSS」その2：拡張子がhtmlのファイルに対し、教科書に沿って「内容を記入・編集して保存。ブラウザで表示を確認。適宜内容を修正。再度表示を確認」を繰り返す。
第21回	「HTML+CSS」その3(教科書の続きと、確認試験内容の提示)。Gmailの設定(発信アドレス)。大学メールサーバからGmailへの転送設定。OfficeソフトからDisk非経由でOneDriveを利用(直接保存、直接呼出し)。
第22回	「HTML+CSS」その4(教科書の続きと、提出課題の提示)。Twitter登録と災害情報。
第23回	「HTML+CSS」その5(続き)。PCからのLINE利用設定・利用。Yammer(PCとスマホ)。PPからの動画作成。
第24回	「HTML+CSS」その6(続き)。フォトからの動画作成・編集その1。Stream。
第25回	FFFTPのダウンロード・インストール・サーバ登録・接続。フォトからの動画作成・編集その2。YouTubeチャンネルの開設。YouTubeへアップ(非公開設定)。インターネットにおけるルール&マナー検定(以降、イルナ検定)課題(スマホ)。
第26回	FFFTPによるインターネット上のファイル操作(サーバのホームディレクトリへpublic_htmlを作成・パーミッション指定、そのフォルダへファイル転送、公開の確認、お気に入りへ追加)。イルナ検定課題2(以降適宜)。
第27回	「HTML+CSS」その7(応用課題の提示。情報倫理、HP閲覧・検索(フリー素材(主に画像とする)の収集。素材があった頁のアドレスも記録しておく)、音声録音など)
第28回	同上および応用課題の提示2(デジタルデータ・画像等取り込み、リンクやCSSの設定、それぞれローカルでの確認など)ならびにYouTube動画の埋込
第29回	同上。次の①～②について適宜実施する：①ブロック型ビジュアルプログラミング言語(Scratchなど)、②アルゴリズム課題(アルゴリズムその他)。
第30回	「HTML+CSS」その8(課題と期末試験の確認)。
事前・事後の学習時間・学習内容について	2単位の演習科目(30回)のため、規則として30時間の授業外学修を想定しています(平均すると、30回の各回に60分ずつ)。適宜出す課題への取組み、授業での疑問を解消する学習、発展学習、予習等がその学習内容になります。教科書・オンラインの授業資料等を参考にしても残る疑問は、友達や教員へ質問して、次回授業までに解消しておいて下さい。授業前：提出課題に計画的に取り組んでください(30分)。授業後：疑問解消に努めてください(30分)。
課題・試験のフィードバック方法	試験の場合は模範解答を授業用サイトに公表する。課題については、予めアナウンスする方法により、再提出や修正を適宜指示する場合がある。
評価方法・基準	授業参加状況、提出物、試験から総合的に判断します。授業参加状況を重視します。期毎に試験を行うか、課題を出しますが、クラス毎とクラス共通の両方を予定しています。また、TypeQuickが指定レベルま完了してい

	なければ不可です（各クラス共通）。また、通年で70%以上の出席がなければ不可です（各クラス共通）。 授業への取組（課題への取組を含む）40%+共通テスト30%+定期試験（あるいは最終レポート）30%				
教科書	NO	書籍名	著者名	出版社	ISBN
	1	情報リテラシー 総合編 (Windows 11・Office 2021対応)		FOM出版	
	2	TYPEQUICK学校研修キット (USB版)		日本データパシフィック	
	3				
参考書	NO	書籍名	著者名	出版社	ISBN
	1	教養としてのデータサイエンス	北川源四郎 ／竹村彰 通・編 内 田誠一／川 崎能典／孝 忠大輔／佐 久間淳／椎 名洋／中川 裕志／樋口 知之／丸 山宏・著	講談社	978-4-06-523809-7
	2				
	3				
受講に伴う費用 (教科書を除く)	なし				
主たる授業形態※ 学期途中に変更に なることがあります。	オンライン授業		対面授業		併用
			○		
オフィスアワー	本科目は複数の教員が担当するため、オフィスアワーについては各担当者の授業科目の頁を参照してください。				
その他学生への メッセージ	皆のために用いる大きな能力を身につけましょう。グレード別クラス編成とし、各グレードでは上記内容の教育内容と実施方法を、主にアプリケーション教育部分で調整します(ただし7回目～10回目における、データを読む、データを説明する、データを扱う、データを扱うその2については、どのグレードでもしっかり行います)。愛神に心と精神と思いを尽くし、愛隣し、神と人とへ仕えましょう。そのように生きましょう。その一環として学びましょう。祝福を祈ります。なお、担当教員によって、内容が細かい部分で異なることがあります。				
参考URL					
備考					

授業種類	実務家教員 <input type="checkbox"/> 実務家教員である <input checked="" type="checkbox"/> 実務家教員でない  実務経験  年数
------	--